

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	15 / 2000 / 10-16
タイトル	50年ぶりのトンボ採り
著者名	五十嵐正俊

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

50 年ぶりのトンボ採り

第 3 代 五十嵐 正俊

きっかけ

我が家では毎年山のフキを採取して塩蔵するのが年中行事になっており、毎年6月ともなればそわそわして落ち着かない。採取の場所と時期を誤れば虫が入り品質が極端に悪くなるのである。

今年は新城川の上流域に入山し、林道脇が少し広くなったところに車を止めてふと見ると斜面から流れ落ちた水が側溝からあふれて水たまりが出来ていた。

水たまりの上ではシオカラトンボを少し小さくしたようなシオヤトンボが4-5匹飛び交っているのが見えた。

周囲の状況から発生源はこの付近のセリの繁茂している側溝付近であることは間違いなさそうであった。あいにく捕虫網も持参していなかったなのでその日は場所の記憶だけにとどめ、フキ採りに専念していた。

後日、三内のリバーランド、競輪場隣の森の広場などを訪れる機会があり、これらの水辺では少年時代の記憶に残っている2、3種のトンボに遭遇することが出来た。とくに50年ぶりの再会であるヨツボシトンボは非常に懐かしいものであった。

また、蝦名先輩から東奥日報社からの連絡で、原別でハッチョウトンボらしい小さいトンボが捕獲されたとの情報が伝えられた。

昨年は新城空沼畔付近の細流でムカシトンボのヤゴも確認していたし、早春の岩渡では独特のポーズを示すコシボソヤンマのヤゴも確認していた。

7月に入ってフキ採りも目標を達成した頃、この様な背景があって少年時代のヤゴ採りの頃を思い出しながら採集または目撃できた種類を整理してみた。

採集に訪れた青森の水辺

リバーランド沖館

ここは三内丸山に隣接した沖館川の遊水池であるが、昨年2月環境庁より絶滅危惧種に指定されたメダカの生息地で、懐かしいメダカ(注)の学校が今でも観察できる。

水深の浅い人工の池で、池の底もコンクリートで固められ排水路もコンクリート三面張りの色気のない施工がなされている。

しかし、水源はほとんどが湧水と思われ、人工の池や排水路には比較的澄んだ水が流れている。池や排水路の一部には泥が堆積して各種の水生植物が繁茂している。水性植物の種類でも青森市内では最も多様性に富んだ場所となっている。

運転免許センターに接する上流部と三内西小学校と三内中学校に隣接した運動場に

分けられるが上流部には運転練習コースのような舗装路が出来ているが湿地のため半分は水没状態で利用する人もほとんどいない。

沖館川に接した側には小池があるが、すでにブラックバスの侵入が見られ、ブラックバスのいる池ではメダカの生息は見られない。

植物の繁茂した場所では各種のヤゴが生息していてヤゴ採りを楽しむことが出来る。少年時代、手のひら一杯(バケツも持たずヤゴ採りは素手で手の中に握って持ち帰っていた)に採集していたシオカラトンボのヤゴにも再会できた。

また、苗代跡などで良く見かけたキイトンボを観察出来たのはこのリバーランド沖館だけであった。

この場所には何回か訪れたが、ギンヤンマ、オオルリボシヤンマ、マダラヤンマ、ショウジョウトンボ、ハラビロトンボ、コフキトンボ、キトンボ、アジアイトトンボ、モートンイトトンボ、キイトンボなど17種類のトンボが生息しており、青森市内では最も種類数の多い場所ではないかと思う。

現状は時々園芸業者が出入りして草刈りなどの作業を行っているが、むしろ藪や高木を配置するなど若干の手入れを行えばさらに種数を増やせる可能性があるのではないだろうか?生息しているのはトンボやメダカだけではなく、タニシ、カワニナ、コオイムシ、ゲンゴロウ、ミズカマキリ、マツモムシ、ヌマエビなど青森市内ではほとんど見られなくなった生き物に再会できる楽しさがある。

しかし、ヒメダカ、アメリカザリガニなどを放流している人もいるらしい。遺伝資源攪乱のおそれがあるので余ったペットの放流は止めていただきたい。

水深はせいぜい30cm程度で小学生でも安心してメダカ掬いやヤゴ採りが体験できる安全な場所である。今後とも青森のビオトープとして大いに活用したい場所である。

三内ジュンサイ沼 (仮称)

運動公園と三内丸山遺跡の間にある古くからの沼であるが最近では岸の植物の繁茂や水量の減少で急速に面積が縮小しつつあり、少年時代兄貴に連れられて鯉釣りに藪をかき分けてやっとたどりついた溜め池の面影はない。

しかし、現在もジュンサイが繁茂し、中の島の岸边にはミツガシワの自生も見られる異色の沼である。

残念ながら北岸はコンクリートブロックによる護岸が施され水深も比較的深い。他は草丈が深くて気軽に岸边を散策できる状態ではない。

流下する放水路はコンクリート三面張りで、生き物の棲息環境としては最悪である。池の中には誰が放流したかブラックバス、カムルチー(雷魚)の棲息が認められると言う。トンボ類はギンヤンマ、オオルリボシヤンマ、キトンボなどが見られたが訪問した回数が少ないのでチェックが不十分である。

森の広場 (沼)

新城の競輪場に隣接した場所で青森市の憩いの森となっているが、あまり知られていないせいか訪れる人はほとんど居ない。

野球場、ゲートボール場などのほか遊歩道もあって森林浴が楽しめるが、森林はほとんどがカラマツだけなので春の新緑の頃以外はあまり魅力がない。

この中には沢地を堰き止めた沼があって、一面にヒルムシロ、葦などが生えている。周りはカラマツ林と少しばかりのスギ林に覆われている。

堰き止めた堤防の上下はかなりの深さがあって小中学生にはやや危険地帯である。

この沼にはやや大型のズジエビが繁殖していて、採集方法を工夫すればエビ料理にありつけるかも知れない。魚類ではフナ以外に何が棲息しているか分からないが、メダカの棲息は認められなかった。

地形の関係上トンボ類の棲息はコサナエ、クロスジギンヤンマ、オオルリボシヤンマ、ヨツボシトンボ、モノサシトンボ、キトンボ、オオアオイトトンボなどが見られ、青森市内ではやや特殊な環境であるように思われる。

調査が進めばさらに種数も増えるだろうが残念ながら採集可能な場所は限られている。

捕獲は出来なかったが、遊歩道ではエゾトンボ類の飛翔も観察されている。

石江笹森沼

かつては天然氷を採取していた青森市内では比較的大きな沼であるが、近年は周りに住宅が建ち並び、生活污水による汚染が著しい。さらに岸の埋め立てによって面積は往年の三分の一位だろうか？

埋め立てによって浅い部分が消滅して中心部が残っているに過ぎない。

採集に訪れた時には一面にアオコが発生していた。水面には十数羽のカルガモが浮かんでおり、数頭のギンヤンマが岸よりをパトロールしていた。岸よりの葦の間ではギンヤンマの雌が産卵しているのも目撃された。

ギンヤンマ以外ではコフキトンボ、シオカラトンボ、アジアイトトンボなどが観察されたが挺水植物はほとんど見られず水辺環境としては危機的状況と見えた。

沢山周辺

新興住宅地戸山団地から一山越えた山間に沢山集落があるが、八重田海岸で陸奥湾に入る赤川の源流地帯である。集落付近の赤川は兩岸をコンクリートブロックで固められているが周辺水田の基盤整備はあまり行われていない。したがって、用水路など古くからの自然地形が残されている。

水路にはカワニナやホタルの幼虫も見られ、夏の夜は蛍の光を観察できるという。

ここでは溪流棲息性のヒガシカワトンボをはじめキトンボ、ミヤマアカネ、マユタテアカネ、オニヤンマなどの幼・成虫が採集されている。

また、この近くは地図上の青森県のヘソ（重心）に当たるようで、棟方君のホームページ <http://www.abc.ne.jp/~munakei/> に紹介されている。

合子沢溪流

水道の味日本一の横内川の尾根一つ西側を流れる溪流で萱野高原の西側が源流となっている。ヤマメ・イワナ・ニジマスも放流されており、日の長い夏場には平日でもアフターファイブに釣り糸を垂れる人も散見される。

残念ながら育樹際をきっかけに道路が整備され、護岸工事が進み景観が損なわれてしまったと言われる。

道路が良くなった分気軽に車で入溪出来る。青森市中央市民センター主催の親子せらぎウォッチングもこの溪流で行われている。

溪流棲息性のサナエトンボ類、付近の休耕田などに棲息するトンボ類が期待されるがまだ早春の調査を行っていない。

ここではコノシメトンボ、ナツアカネ、ルリボシヤンマなどが採集されている。

上流には育樹際の会場になった公園があるが、その一角鳥獣観察小屋には排水を一時的に溜めた小池が造られている。

完成後日も浅いので種数は限られているが、山上の人工池なのでトンボ相がどんな変化を見せていくのか注目している。

1999年10月にはウスバキトンボの終令幼虫、アオイトトンボ、ルリボシヤンマなどの成虫が産卵していた。

1999年8月にはこの付近でクマも目撃されたという。

岩渡周辺

我が家のある新城平岡からは尾根道一本のドライブコースが続いているが、青森空港付近を源にする熊沢川が流れ、新城駅付近で新城川に合流している。

高速道路と交差する付近で流れの真上に青森市の産廃処理場があってその下流部分では異様な臭気が漂っている（ハマダラナガレシギアブの高密度生息地）。

処理場の浸透水は污水处理施設によって透明度1m以上にまで処理した上で放流していると言うが処理水の放流方法に問題がある。水生昆虫相は明らかに異常。

岩渡集落より上流は沢沿いに水田が連なっている。沢の水質は比較的良さそうで、蝦名先輩と訪れた際にはスナヤツメ、シマドジョウ、ウグイ科の幼魚、コシボソヤンマなどが得られている。

集落の手前には小さな山間の溜め池があってルリボシヤンマ属、マユタテアカネ、クロイトトンボ、オオイトトンボ、モノサシトンボなどが棲んでいる。

天田内川流域

青森市油川町内で青森湾に流入する天田内川はかつて森林鉄道が通っていた頃は素晴らしい深山の雰囲気があり、イワナの生息密度は相当なものであった。

林業試験場青森支場時代には青森営林署新城苗畑 (現新城中央小学校) にあった実験室から土曜日は毎週のように通った場所であるが現在当時の面影はほとんど無い。この溪谷は青森県の砂防指定地で砂防堰堤が築かれ、その上流にも用済みの小堰堤がある。水田地帯を流れる中流域は他の小河川同様コンクリートによる護岸工事が行われている。

今でも小さなイワナが 2 - 3 匹は釣れるが、意気込んで釣りに行く気にはならない。

上流部にはヒガシカワトンボの棲息も認められ、途中の休耕田ではハラビロトンボを目撃したこともある。

昨年 (1999 年) はオニヤンマ、マユタテアカネ、ミヤマアカネ、ナツアカネ、オオイトトンボなどを目撃している。この流域に比較的近い倉の沢の溪流沿いではシオヤトンボも観察されている。

以上 1999 年 7 月から思いつきで始めた青森市内のトンボ探しに訪れた場所の概況を紹介したが引き続き少年時代の遊び相手だったトンボやトンボ虫 (ヤゴ) を追いかけてみたいと思っている。

幸い現代は各種の参考書もあり、インターネットで素晴らしい画像も見られる時代になっている。しかし、都市化や人々の生活様式も変わり、身のまわりから急速にトンボの姿が遠ざかっている状態である。

出来ることならば、リバーランド沖館の例でも実証されているように水辺にある程度の植物が繁茂してくれば、たとえ人工的な環境であってもかつて身のまわりにいた小さな生き物達を呼び戻すことも可能なのである。都市環境の中にもビオトープの再生活動を提唱したいものである。

(2000 年 1 月 10 日)

トンボに関する参考書は

「原色日本昆虫生態図鑑 - II トンボ編 -」 石田昇三著

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊著、東海大学出版会、1996. 11. 30.

「青森県のトンボ類 '77」 奈良岡弘治著、1977. 4. 1. (謄写刷り、非売品)

「蝦夷の蜻蛉」 <http://sol.muratasystem.or.jp/~y.hirose/welcome.htm>

などを参考にした。

注) 1999. 2. 18. 環境庁よりメダカの絶滅危惧種 B II 類指定の発表でセンセーションを巻き起こしたが、青森市内でも一般水田地帯ではほとんど絶滅状態である。

その原因は色々考えられているが、最大の原因は水田の基盤整備事業に

あったように思われる。基盤整備事業の進行と共に水田地帯の水路は用水の効率的な配・排水のためほとんどがコンクリート三面張りあるいはコンクリートのU字溝に変えられた。

これらの用水路では耕作時以外水はなく、水草も繁茂しないためメダカやメダカと同じ生態系に棲息する多くの生き物達が致命的な影響を受けた。

日本の水田地帯に再びメダカの学校を復活させようとすれば思い切った公共事業費の投資と破壊を伴う生態系の復元・再生事業が必要となる。

まだ全国的にメダカの分布は認められるが、多くは限られた場所に点状に分布しているに過ぎない。詳しい資料は<http://plaza12.mbn.or.jp/~suzuhro/> を参考にされたい。

青森市内では三内リバーランド沖館が最大の生息地であるが、他に何か所か生息地があるらしい。

発見できた場合にはその環境が現状のまま維持されるように最大限の努力をお願いしたい。また、五十嵐宛に具体的な情報をお知らせいただければ有り難い。

1999 年度 青森市内トンボ採集記録

記録：五十嵐正俊（1999.9.9. 現在）

参考までに記録できた42種と近年市外で記録された数種を加えたリストを添えておきます。何か情報がありましたお知らせ下さい。

均翅亜目 Zygoptera Selys

(和名の*印は青森市以外)

イトトンボ科 Coenagrionidae Munz

モートンイトトンボ	<i>Mortonagrion selenion</i> Ris	1999. 7. 8. 三内
キイトトンボ	<i>Ceriagrion melanurum</i> Selys	1999. 7. 19. 三内
アジアイトトンボ	<i>Ishnura asitica</i> Brauer	1999. 7. 8. 三内、石江
クロイトトンボ	<i>Cercion calamorum calamorum</i> Ris	1999. 7. 9. 岩渡、沢山ほか
セスジイトトンボ	<i>Cercion hieroglyphicum</i> Brauer	1999. 7. 6. 森の広場
オオイトトンボ	<i>Cercion sieboldii</i> Selys	1999. 7. 8. 三内、岩渡ほか
*オオセスジイトトンボ	<i>Cercion plagiosum</i> Needham	1998. 6. 29. ベンセ湿原
エゾイトトンボ	<i>Coenagrion lanceolatum</i> Selys	1999. 7. 4. 森の広場
オゼイトトンボ	<i>Coenagrion teruei</i> sahina	1999. 8. 1. 田代

モノサシトンボ科 Platycnemididae Tillyard et Fraser

モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i> Selys	1999. 7. 4. 森の広場、岩渡ほか
---------	------------------------------	-----------------------

アオイトトンボ科 Lestidae Tillyard

アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i> ansemann	1999. 7. 5. 三内、沢山ほか
オオアオイトトンボ	<i>Lestes temporalis</i> Selys	1999. 7. 9. 岩渡、森の広場ほか
オツネイトトンボ	<i>Sympecma paedisca paedisca</i> ersmann	1999. 10. 12. 天間林、野内

カワトンボ科 Calopterygidae Buchecker

ヒガシカワトンボ *Mnais pruinosa costalis* Selys 1999. 7. 24. 沢山

ムカシトンボ亜目 Anisozygoptera Handlirsch

ムカシトンボ科 Epiophlebiidae Muttkowsky

ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* Selys 1998. 6. 新城空沼

不均翅亜目 Anisoptera Selys

サナエトンボ科 Gomphidae Banks

コサナエ *Trigomphus melampus* Selys 1999. 7. 5. 森の広場

ヒメクロサナエ** *Lanthus fujiacus* Fraser 1999. 8. 29. 合子沢

* コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys 1999. 8. 28. 三戸熊原川

オニヤンマ科 Cordulegastridae Banks

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* Selys 1999. 7. 9. 岩渡、沢山ほか

ヤンマ科 Aeshnidae Rambur

コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* Selys 1998. 8. 5. 岩渡

マダラヤンマ *Aeshna mixta* atreile 1999. 8. 30. 三内

ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* innaeus 1999. 8. 29. 合子沢

オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava* artin 1999. 7. 10. 三内、沢山

クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus nigrofasciatus* uma 1999. 7. 4. 森の広場

ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer 1999. 6. 29. 三内、石江

エゾトンボ科 Corduliidae Karsch

タカネトンボ *Somatochlora uchidae* Foerster 1999. 8. 野内

* コヤマトンボ *Macromia amphigena amphigena* Selys 1995. 6. 6. 増川

トンボ科 Libellulidae Stephens

ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* Selys 1999. 8. 11. 三内

シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* Uhler 1999. 6. 10. 新城倉の沢

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* Uhler 1999. 7. 8. 三内

ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahinai* Schmidt 1999. 7. 5. 成虫

ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur 1999. 7. 19. 原別

コフキトンボ *Deielia phaon* Selys 1999. 8. 30. 三内、石江

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia mariannae* Kiauta 1999. 8. 11. 三内

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum elatum* Selys 1999. 7. 24. 沢山、天田内

ナツアカネ *Sympetrum dar inianum* Selys 1999. 9. 3. 天田内、野内

アキアカネ *Sympetrum frequens* Selys 1999. 7. 29. 沢山ほか各地

マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* Selys 1999. 7. 28. 沢山ほか各地

マイコアカネ** *Sympetrum kunkli* Selys 1999. 7. 9. 岩渡

リスアカネ** *Sympetrum risi risi* Bertenef 1999. 7. 5. 油川

ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* Selys 1999. 7. 31. 田代ほか

コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* Ris 1999. 7. 24. 沢山、合子沢

キトンボ *Sympetrum croceolum* Selys 1999. 7. 24. 沢山、三内ほか

カオジロトンボ** *Leucorrhinia dubia orientalis* Selys 1999. 8. 1. 田代

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* Fabricius 1999. 8. 29. 市内各地

** は幼虫のみによる同定なので、成虫捕獲による確認が必要である。